

## 令和 4 年度システム改善・資源開発検討会議（縦レビュー会議）から

## 抽出された課題に対する取組報告について

## 【概要】

令和 4 年度の縦レビュー会議から抽出された課題は 4 つ

課題① 虐待対応システムの効率化
課題② 虐待対応システムの見直し
課題③ 関わり初期からの地域ケア会議の実施、地域とのつながりの把握
課題④ 警察との連携

上記課題のうち①③④について令和 5 年度は取組を実施した。

また、令和 3 年度の縦レビュー会議で抽出された課題 1 つについても取組を実施した。

## 【取組内容・効果】

## 課題① 虐待対応システムの効率化

取組成果	<p><b>1. 情報共有 MT とコアメンバー会議を同時に開催するための条件整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受理した段階で、ある程度事前に情報をつかんでいるケースは同時開催する方向で検討していく（再発ケース・経過を把握できているケース・警察通報で明らかに夫婦喧嘩や親子喧嘩の類のケース等）</li> <li>・同時開催の可否は、高齢は高齢介護課・包括・権利 C の 3 者、障がいは障がい福祉課・基幹相談・権利 C の 3 者が判断</li> </ul> <p>※今後いくつかのケースで同時開催し、条件整理をしていく</p> <p><b>2. スケジュール調整ツールを活用した調整業務の効率化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュール調整ツール「TONTON」を利用し、日程調整を行う</li> </ul> <p><b>3. 会議の開催方法等の検討（オンライン形式の開催等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メリット…会議場所への移動時間削減</li> <li>・デメリット…不正アクセスによる個人情報漏えいのリスク</li> </ul> <p>「会議については参集形式での実施を基本とするが、例外的に一定の条件のもとオンライン会議も可能とする」と結論付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の条件について</li> </ul> <p>急を要するケース、1 人だけ日程調整が合わず会議開催が相当先送りになる等を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン会議開催注意点</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①個人名についてはイニシャルを用いるなど、やり取りをする個人情報は必要最低限の範囲とすること</li> <li>②窓口に近い場所を避けるなど、他者に見られない工夫をすること、などの配慮が必要である。</li> </ol> <p><b>【参考】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ZOOM 会議は、「エンドツーエンド暗号化」という手法を採ることによ</li> </ul>
------	--

	<p>り、セキュリティを強化することが可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Microsoft Teams」であれば日本の会社のため安心だが、ZOOMの方が通信環境は安定している</li> </ul>
取組に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議日程調整ソフトの導入により、調整がスムーズになった。</li> <li>・近隣他市の状況も踏まえ会議のZOOM開催も検討したが、個人情報の使用ルール等一定の条件を決める必要もあり、運用には時間がかかると思う。</li> </ul>

## 課題③関わり初期からの地域ケア会議の実施、地域とのつながりの把握

取組成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.4 包括の社会福祉士の集まる「社会福祉士部会」において会議シートの簡略化を行った。</li> <li>2. 「地域ケア会議開催マニュアル」の見直しを提案</li> </ol>
取組に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議開催マニュアルの見直しにあたっては、多職種からの意見が必要なのではないかと感じた。</li> <li>・地域ケア会議は情報共有から方針検討まで実施することが多く、事前に根回しするなど事前準備に時間や手間がかかる。情報共有だけ、少人数、最初から成果を求めすぎないシステムであれば回数増が見込める。</li> </ul>

## 課題④ 警察との連携

取組成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会の開催を通じて、顔の見える関係性が構築され、連携・相談しやすい環境となった。</li> <li>・個別支援についてだけでなく、日々のイベント等を活用した詐欺啓発などについても協働することができた。</li> </ul> <p>(地域課の警察官に SOS ネットワーク事業の説明を対面で行う機会をもった、高齢者のつどいや敬老会にて詐欺啓発を行う機会を設けた、認知症特集号への撮影協力など)</p> <p><b>【今後について】</b></p> <p>連絡会は継続し、年1回程度を目安に関係機関も参加しながら進める。</p>
取組に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会を通じて生活安全課のモニタリング方法や他部署との連携の取り方などがわかり参考になった。今後も顔の見える関係でありたい。</li> </ul>

## 令和3年度課題 地域の人が良くない状況をみても気づかない、現行の研修の対象範囲が狭い

取組成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待に関する研修資料の作成・研修の実施 (R5年度対象：民生委員)</li> <li>・研修ツールの土台が作成されたため PT は終結し、今後は研修の依頼ごとに対象者に沿って資料を修正し、実施する。</li> </ul>
取組に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と一緒に虐待防止研修のパッケージ(資料とその説明文)を作成することが出来たことは意味があった。事例をイメージしやすく可視化したり、今後対象者によって内容を修正しつつ、ブラッシュアップしていきたい。</li> </ul>